

Hello! FUJISEI

No. 123

総務省統計局は、毎年「敬老の日」を迎えるに当たって、「統計からみた我が国の高齢者のすがた」について取りまとめています。

それによると、65歳以上の高齢者人口（平成24年9月15日現在推計）は3,074万人と3,000万人を突破、総人口に占める割合は24.1%となっています。前年（2,972万人、23.3%）と比べると、102万人、0.8ポイント増と大きく増加し、人口、割合ともに過去最高となっています。これはいわゆる「団塊の世代」と呼ばれる

高齢社会の進行、さらに加速

65歳以上が24.1% 3000万人を突破！

人のうち昭和22年生まれが新たに65歳に達したことによると思われます。

男女別では、男性は1,315万人（男性人口の21.2%）、女性は1,759万人（女性人口の26.9%）と、女性が男性より444万人多くなっています。

年齢階級別にみると、70歳以上人口は2,256万人（総人口の17.7%）で、前年に比べ70万人、0.6ポイント増、75歳以上人口は1,517万人（同11.9%）で、48万人、0.4ポイント増、80歳以上人口は893万人（同7.0%）で、38万人、0.3ポイント増、85歳以上人口は430万人（同3.4%）

で、24万人、0.2ポイント増となっています。

65歳以上人口は、昭和54年に1,031万人と1,000万人を超え、19年後の平成10年に2,051万人と2000万人を超え、そして14年後の今年、初めて3000万人を超えました。うち75歳以上人口は、昭和62年に523万人と500万人を超え、15年後の平成14年に1,004万人と1,000万人を超え、10年後の今年、初めて1,517万人を超えました。

高齢社会の進行は、今後ますます加速していきます。

高齢者人口の推移（昭和25年～平成24年）

